

アンケート調査による棚田の環境意識評価 —千葉県鴨川市大山千枚田を例として—

千葉工業大学 学生会員 ○錦見勇也

千葉工業大学 フェロー 五明美智男

1. はじめに

棚田は四季折々の美しい景観や、多種多様な生物の生息場となっており、人と自然との関わりの中で維持管理されてきた¹⁾。近年、農業就業人口の減少、就業者の高齢化、後継者不足などにより維持管理することが困難な状況にある。千葉県鴨川市にある大山千枚田では、「棚田のオーナー制度」によりコストや労力の一部を賄い維持管理されている。しかしながら、オーナー活動の当事者としてみると、オーナー会費、オーナーとして体験できることの価値とその提供にかかるコストには大きな差があるように感じられる。そこで、本研究では、棚田の活動にかかわるコストについて着目し、2つのコストに関する支払意志額に関するアンケート調査を行うことで、大山千枚田に対する環境意識を評価することを目的とした。

2. 研究方法

アンケート調査は、実際にオーナーとして参加し活動を通じて棚田での体験の価値を直接感じることができる棚田のオーナーと、棚田の維持管理や効用などについての知識が浅く棚田での体験の価値を感じたことがほとんどない学生を対象に行った。

アンケート調査票は、支払意志額を尋ねる際に用いられる手法である CVM 法（仮想評価法）を参考に作成した²⁾。設問内容は、棚田のオーナーに対しては、大山千枚田との関わりや個人属性（家族構成、年齢、職業、年収）など全 23 問で構成し、学生に対しては、大山千枚田の認知度や農作業経験についてなど全 19 問で構成した。本研究の背景でもあるコストに関連する支払意志額を尋ねる設問については、「オーナー米としての配給量と棚田のオーナー会費」、「無償の施設利用」についての 2 問で尋ねた。設問内容は表 1 のとおりであり、第 1 の設問では著者らのオーナー経験をもとに提示額を選定した上で、「妥当性」および「高い」もしくは「安い」を選択した場合の適当な金額とその理由を、第 2 の設問では選択した金額とともにその理由を尋ねた。

表 1 支払意志額確認の設問

- 問 今、私たち千葉工業大学が支払っているオーナー会費は、お米の取れ高に換算すると 1 人あたりお米 1 kg 1100～1300 円程度になります。しかし、農作業体験や棚田での研究調査、イベントへの参加などのお米以外の付加価値を提供していただいています。こういったお米以外にも付加価値として提供されていることを含めて、お米 1 kg およそ 1000 円の支払いは適当だと思いますか。
○適当だと思う ○高いと思う ○安いと思う
- 問 大山千枚田は棚田倶楽部や地主、地元農家の方々が棚田の維持管理をしてくれているため、千葉県の観光名所として多くの観光客が訪れます。訪れる観光客は無償で棚田の風景や、棚田倶楽部の施設を楽しむことができます。そこで仮に、駐車料や施設利用料を含む、維持管理への寄付金として支払って貰うこととして、いくら支払って貰うのが適切だと思いますか。1つお選びください。

○100 円 ○500 円 ○200 円 ○500 円以上 ○300 円 ○貰わない

アンケート調査の実施は、2015 年 8 月の下旬から 9 月の半ばにかけて棚田のオーナー制度の参加者 160 名、2015 年 12 月に本学の 3 年生 40 名を対象に、「大山千枚田の維持管理によりもたらされる価値に関するアンケート」として実施し、棚田のオーナーは郵送で回収、学生にはその場で回答回収を行った。

アンケート調査結果より、棚田のオーナーと学生それぞれの回答を集計した。その中で、記載漏れなどのデータに関しては「無記入回答」として扱った。

3. 1 棚田オーナー回答の集計結果

アンケート調査票を配布した 160 名のうち、回答があったのは 107 名であり、回収率は 67% となった。アンケートの集計結果のうち、オーナー会費と活動についての結果を図 1 に、また、会費の支払いに対して具体的な金額の回答結果を図 2 に示す。

図 2 より、会費の支払いを適当だと回答した人は 67% であり、高いと回答した人が 11%、安いと回答した人 17%、無記入が 5% となった。また、図 2 より、安いと回答した人の支払額の平均値は 2033 円、最高額で 5000 円、高いと回答した人の支払額の平均値は 565 円、最小額は 300 円となった。また、安いと回答した人の意見では、「様々な経験をして成長することができる場である」、「経験のない人でも安全・安心して作業ができる指導をしてもらえるから」などが挙げられ、高いと回答した人からは、「維持管理のための農作業に労力を提供しているから」、「販売されている米価の相場に比べると高いから」などの意見が挙げられた。

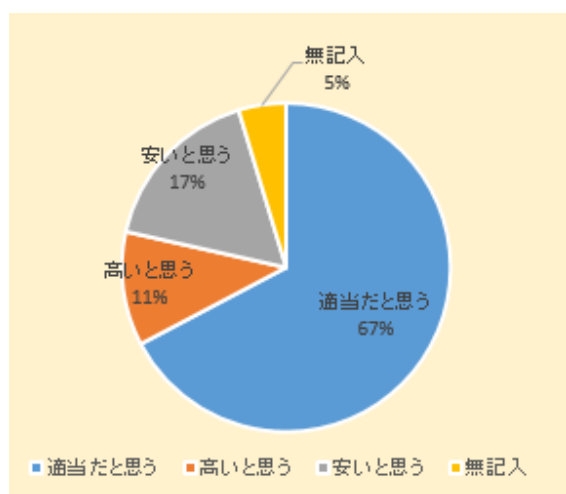


図 1 会費の妥当性についての回答（棚田オーナー）

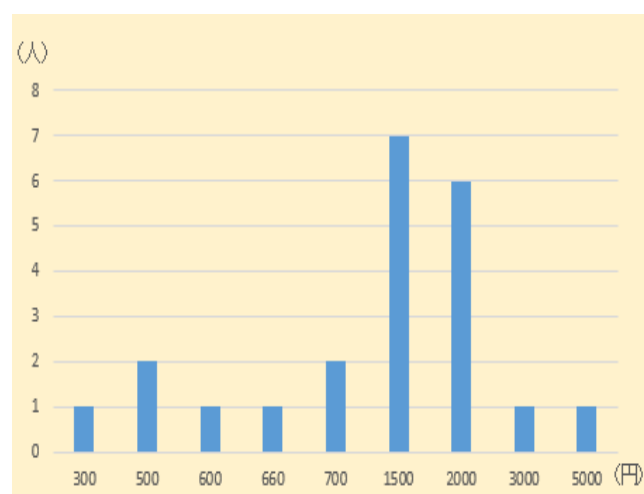


図 2 適当であると感じる金額の分布（棚田オーナー）

次に、無償での施設利用に関する設問の結果を図 3 に示す。図 3 より、駐車料や施設利用料への寄付金として支払って貰う方がいいと回答したのは 65 名、支払わない方がいいと回答した人は 33 名、無記入が 9 名となった。また、寄付金として支払って貰う方がいいと回答した人の意見では、「観光名所として観られる景観維持のための協力として」、「駐車代などとしてワンコイン程度なら払える」などが挙げられ、支払わない方がいいと回答した人の意見では、「無料だからこそ観光客が訪れやすいと思うから」、「美しい景観、自然の良さを多くの人に知ってもらっただけで十分」などが挙げられた。

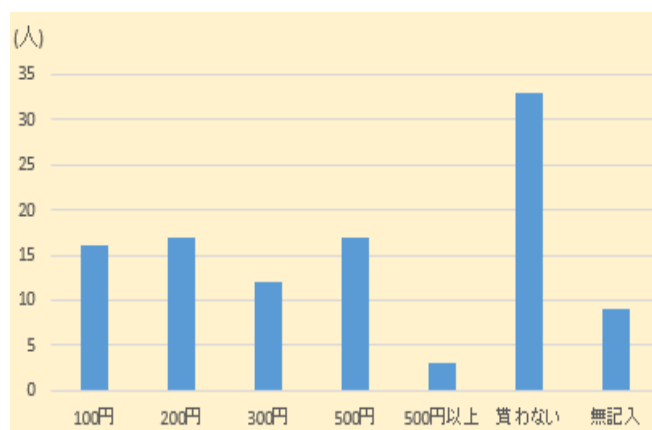


図 3 無償で施設を利用することについての回答（棚田オーナー）

3. 2 学生回答の集計結果

3. 1 と同様に、オーナー会費の妥当性の結果を図 4 に、また、会費の支払いに対して具体的な金額の回答結果を図 5 に示す。

図4より、会費の支払いを適当だと回答した人は66%、高いと回答した人が17%、安いと回答した人が17%となった。また図5より、安いと回答した人の支払額の平均値は3083円、最高額で10000円、高いと回答した人の支払額の平均値は707円、最小額は500円となった。また、安いと回答した人の意見では、「維持管理費等のその他のコストを考えると安いと思うから」、「お米以外の付加価値として様々な体験ができると思うから」などが挙げられ、高いと回答した人の意見では、「多くの人にオーナーになってもらうには会費を下げるのが効率的だと思うから」、「販売している米価の相場に比べると高いから」などが挙げられた。

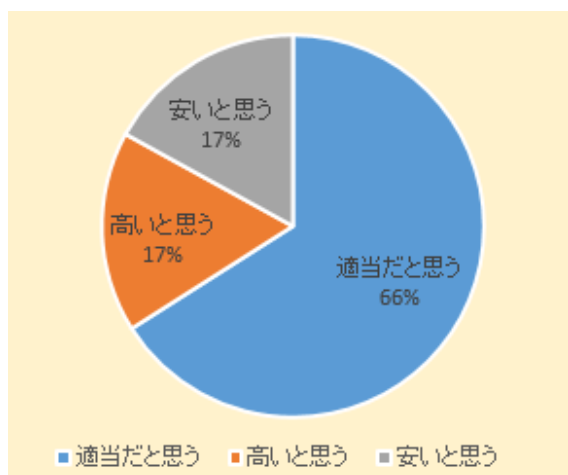


図4 会費の妥当性についての回答（学生）

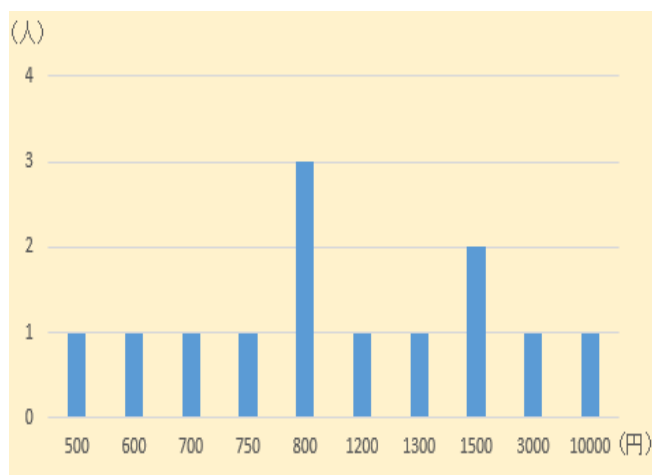


図5 適当であると感じる金額の分布（学生）

次に、無償での施設利用に関する設問の結果を図6に示す。図6より、駐車料や施設利用料への寄付金として支払って貰う方がいいと回答したのは35名、貰わない方がいいと回答した人は5名となった。また、寄付金として支払って貰う方がいいと回答した人の意見では、「今まで無償であったが、いきなり大きな金額を徴収しなければ払ってもらえると思うから（但し、使い道をしっかりと示すこと）」、「駐車場は大体のところは駐車料を取られるから」などの意見が挙げられ、支払って貰わない方がいいと回答した人の意見では、「今が無償で成り立っているのなら、今後あえてお金をもらう必要はないと思うから」、「観光客は無償の方が多く集まり、知名度が上がると思うから」などの意見が挙げられた。

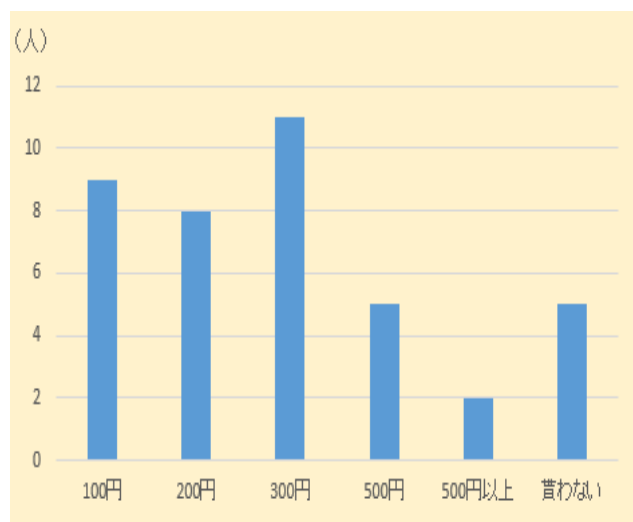


図6 無償で施設を利用することについての回答（学生）

4. 考察

4. 1 棚田のオーナーが感じる付加価値について

オーナー活動を実際に体験している棚田のオーナーのアンケート結果から、付加価値の感じ方の違い（付加価値の形成）について考察する。「オーナー会費の支払いと活動を通じて得られる価値について」の回答結果で高いと回答した人と安いと回答した人に分かれたのは付加価値の感じ方が違うからであると考えられる。ここで、付加価値の感じ方の違いの要因として考えられるその他のアンケート結果を図7、8に示す。

図7より、安いと回答した人の方が棚田を訪れる頻度が少ないことがわかる。さらに図8より、オーナーの継続年数で比較すると、約5年以上前から始めているオーナー72名のうち11%の人が安いと回答していることにに対し、約3年以内から始めているオーナー35名では29%が安いと回答していることがわかる。

以上より、これまでに棚田に触れ合ってきた機会が少ない人ほど付加価値として感じるものは大きくなる傾向にあると考えられる。

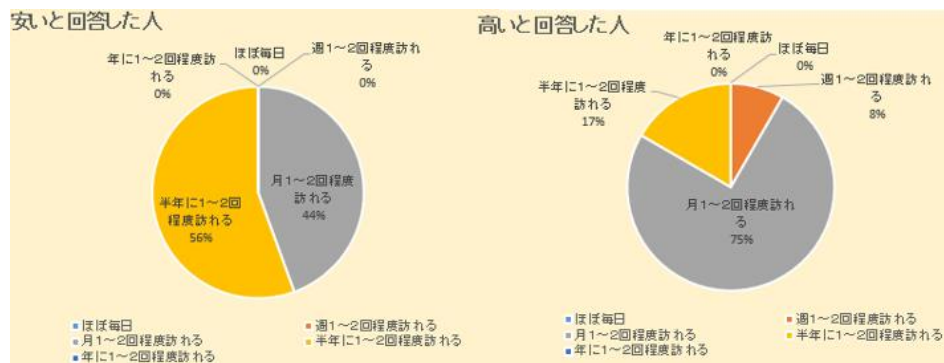


図7 棚田を訪れる頻度

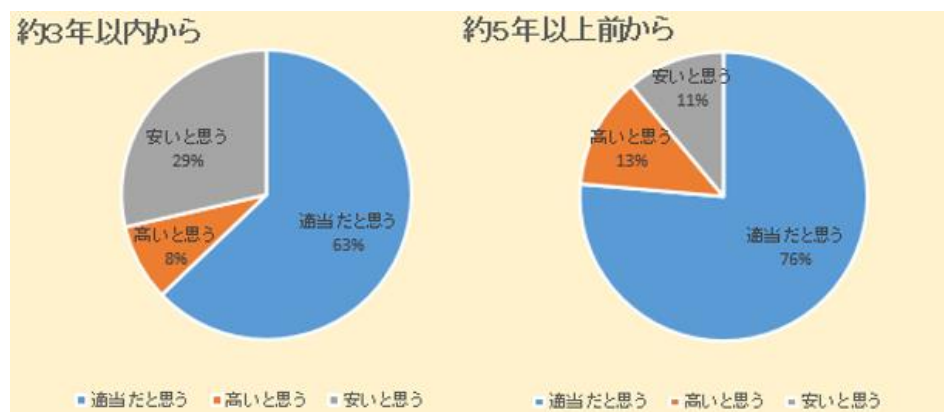


図8 オーナーの継続年数から見た比較

4. 2 施設利用料の比較

「多くの観光客が無償で施設を利用できることについて」の設問について、図5の棚田のオーナーの回答結果と、図8の学生の回答結果を比較する。学生のうち支払わない方がいいと回答した人は5名で全体の13%に対し、棚田のオーナーは支払わない方がいいと回答した人が33名で全体の31%であり、学生に比べて多いことがわかる。これは、棚田のオーナーはオーナーであるため大山千枚田を訪れたことがあるが、学生に関しては訪れたことがあるのは4名の10%のみであり、実際の現場を見たことがあるのかその差が結果の起因となっているのではないかと考えられる。

5. おわりに

本研究では異なる属性である棚田のオーナー及び学生を対象に大山千枚田の環境意識を評価するためにアンケート調査を行った結果、属性別での回答の大差はあまり見られなかった。しかし、棚田のオーナーという同属性の中でも経験や訪れる頻度の差など個々の差によって回答が異なる傾向にあることがわかった。今後はさらに有用なデータを得るためのアンケート改善や得られたデータからより詳細な分析をするとともに、他の母集団へのアンケート調査を実施し様々な視点からのデータ、意見を含め評価を行う必要があると考えられる。

参考文献

- 1) 大山の千枚田文化的景観保存活用実行委員会：「大山の千枚田文化的景観保存活用計画」（2006） p 163
- 2) 総合地球環境学研究所環境意識プロジェクト：「環境意識調査法」（2009） p 196